

事業優先順位	1	細事業:河内長野市バイオマスタウン推進事業				整理番号	03			
目的	バイオマスタウン構想の目的達成に向け、市民・市民団体・事業者の参画と協働により施策展開をはかり、バイオマスタウンの実現をめざす。									
目標	竹バイオマス(竹パウダー)の普及促進に努める。									
事業実施主体	直営	事業開始年	平成21年度	根拠法令						
事業費・財源		平成25年度	平成24年度	比較	コスト情報・従事職員数		平成25年度	平成24年度	比較	
	事業費(決算額)(千円)	1,096	787	309		総コスト(千円)	4,908	4,755	153	
	一般財源	1,096	787	309		内訳	事業費	1,096	787	309
	国府支出金	0	0	0			人件費	3,812	3,968	-156
	地方債	0	0	0			公債費	0	0	0
	その他特定財源	0	0	0		一人あたり(円)	44	42	2	
		0				世帯あたり(円)	104	101	3	
		0				参考	職員数(人)	0.50	0.50	0.00
							再任用職員数(人)	0.00	0.00	0.00
	今後の方向性	バイオチップ利用等各専門機関と連携し、木質系バイオマス利活用の検討を進める。								
評価	妥当性	効率性	有効性	対象者	河内長野市民					
	A	A	A							



細事業：河内長野市バイオスタウン推進事業

1. バイオスタウン推進業務

現在利用されていない未利用バイオマスや廃棄物系バイオマスの利用を検討することで、排出されるゴミの削減や限りある資源の有効利用を推進し、地域社会の継続的発展を目指す。

(1) 竹パウダー等実証調査

放置されて拡大していく竹林の整備を進めていくため、切り出した竹を資源とした土壌改良材としての活用を検討した。

烏帽子形山に繁茂している竹林を整備している烏帽子里山保全クラブから竹パウダー堆肥の提供を受け、大阪府立大学、市内専業農家の協力のもとで実験を行った。土壌改良材としての利用の可能性を検討するため、竹パウダー堆肥のトマトポット育成度としての評価及び竹パウダー中の植物生育阻害物質除去について調べた。

その結果は、つぎのとおりである。

- ・ 鶏糞添加量を少なくして pH を低く保つことにより、竹パウダー堆肥により栽培できる可能性が示された。
- ・ 蒸留水浸漬によりコマツナ種子の発芽率が 2 倍以上に高まったことから、蒸留水浸漬は竹パウダー中の植物生育阻害物質の除去に有効であることが明らかになった。また、蒸留水浸漬処理後にミミズを投入すると、蒸留水浸漬処理後に竹パウダーに発生するカビが抑制されることも明らかになった。
- ・ 竹パウダーを水に 2 日間浸漬すると竹パウダーの植物生育阻害物質がほぼ無毒化される。このことを利用すれば、アンモニアの分解に関与する微生物の活動を阻害することなく、竹パウダーを堆肥化することができ、尻腐れ症を軽減できる可能性が考えられる。

(2) 廃棄物系バイオマスのエネルギー利用

ゴミの減量と再利用を目的に廃食用油回収事業を行っているが、回収した油を発電に利用し、長野公園や寺ヶ池公園でのライトアップの一部に利用することを目的にディーゼル発電機を購入した。次年度から活用する予定としている。